



1年間の取組み2023

九州産業大学 九州産業大学造形短期大学部

KSU Annual Report 2023

KSU Topics	産学連携分野 ……………06
数字で見る実績 ……………01	社会・地域貢献分野 ……………07
教育分野 ……………02	ダイバーシティ分野 ……………08
研究分野 ……………04	ブランディング分野 ……………09
国際化分野 ……………05	経営基盤分野 ……………10

「文理芸融合のグローバル総合大学へ」

文系・理工系に加え、芸術系学部が一つのキャンパスに集う九州産業大学では、「文理芸融合のグローバル総合大学」を目指し、新たな活動を進めています。

2023年度には、新たな教育プログラムや海外の大学と連携したプログラムを立ち上げたほか、研究成果が実用化するなど、多彩な取組みが進展しました。



新たな教育プログラム 「KSUアドバンスプログラム」を開始

2023年4月、意欲ある学生に向けた選抜制の少人数教育「KSUアドバンスプログラム」を全学部学科で開始。学部・学科の教員が、高度な専門知識・スキルの修得を支援し、社会の中核で活躍する人材の育成を目指します。



◀◀◀ パンフレットはコチラ

詳細は02ページへ >>>



世界で活躍できる人材育成を推進

2023年4月、スタンフォード大学「SPICE」との連携教育プログラム「Stanford e-KyuSan-U」を開講。「多様性」「持続可能性」「起業家精神」の3つのテーマについて、英語でのオンライン授業を実施しています。



◀◀◀ 本学のグローバル教育の紹介はコチラ

詳細は05ページへ >>>



世界初のカラー電子顕微鏡の製品化

企業との共同研究の成果として、世界初のカラー電子顕微鏡「FST-1000」を開発しました。

7,000倍の高倍率カラー画像を得ることを実現した世界初の全自動蛍光顕微鏡システムです。



◀◀◀ 広報誌「+K」でも紹介。ぜひご覧ください。

詳細は04ページへ >>>

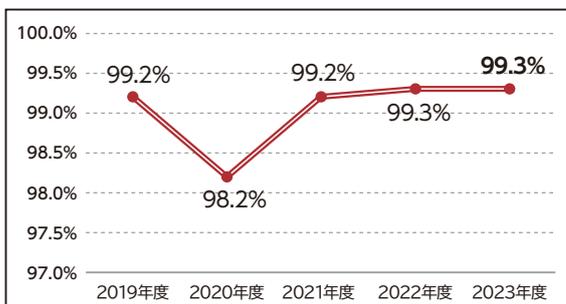


数字で見る実績

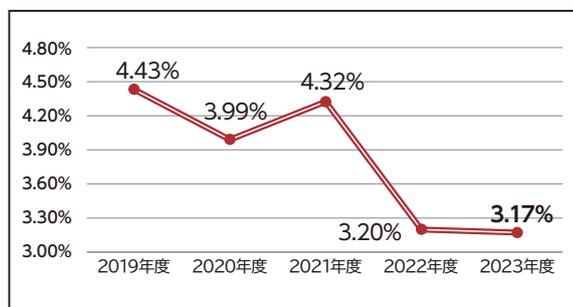
就職決定率 (対就職希望者)

就職決定率は、昨年度の過去最高と同率の99.3%を達成しました。今後も、教職員が一体となって、学生に寄り添ったキャリア支援を目指します。

※ 年度数値は、5月1日現在
例) 2023年度：2024年5月1日現在



除籍・退学率

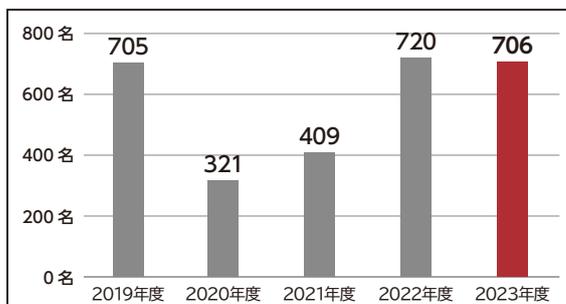


除籍・退学率は、昨年度から0.03ポイント向上の3.17%を記録し、最も良好な数値となりました。継続的な面談等の修学指導体制の強化によって、除籍・退学者数が減少しました。

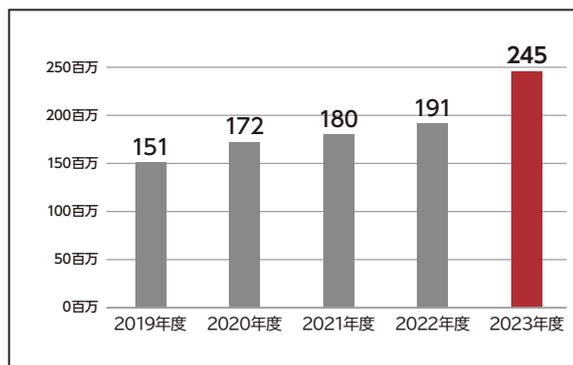


ボランティア活動参加者数

復興支援ボランティアや地域のニーズに対応した貢献活動には、700名を超える学生と教職員が参加しました。地域社会への貢献活動を通じて、学生の学びを後押ししています。



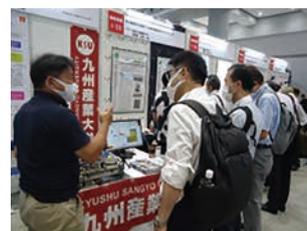
受託研究・共同研究数の増加 (外部資金獲得)



産業界・自治体のニーズに応じた産学連携活動の強化により、外部資金の獲得総額(科学研究費補助金を含む)は、昨年を大きく上回り約2億5千万円となりました。

今後も、URA※が中心となり、学内外のネットワークを構築し、受託研究や共同研究の増加につなげます。

※ University Research Administrator :
研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支える人材





教育分野



多様な資質を有する学生の獲得および文理芸が融合した実践力をみがく教育を実施する。

2025年度
までの目標

- ▶ アドミッション・ポリシーに沿った優秀な学生の獲得
- ▶ 実践力を育成する教育プログラムの推進
- ▶ 新時代に対応した教育プログラムの開発
- ▶ 学年暦の柔軟化
- ▶ 教学マネジメントの確立
- ▶ 学生の満足度を向上させる支援の実施
- ▶ ポストコロナ時代へ対応した支援の実施
- ▶ 高等教育機関としての学び直しの推進

1. 新たな教育プログラム「KSUアドバンスプログラム」を開始



2023年4月、意欲的な学生に向けた選抜制の少人数教育「KSUアドバンスプログラム」を全学部学科で開始しました。

このプログラムでは、高度な資格取得や専門分野の実践的スキルの修得に向けて、各学部・学科の教員が組織的に学修を支援し、社会に貢献する人材の育成を目指しています。

教育現場で即戦力となり活躍できる人材を育成するプログラム「KSU教師塾」や、プロのデザイナーとゲーム等の共同制作をしながらデジタル技術を学ぶなど、多様なプログラムを展開。開始初年度は、教員採用試験合格者が増加したほか、プログラミングスキルの向上を目的としたIT系企業との連携プログラムなどの実施につながりました。

(プログラム例)

国際文化学部	信頼される教師になるために学び続けるKSU教師塾
人間科学部	4つの免許・資格をもつハイレベルな保育者・教員の養成プログラム
経済学部	経済学部独自の公務員養成プログラム(松香政経塾)
商学部	経営・金融・マーケティングに必要なデジタル人材育成プログラム
地域共創学部	観光人材総合育成プログラム(NOMAD塾)
理工学部	プログラミングスキル“見える化”プログラム
生命科学部	九州有力企業への就職支援プログラム
建築都市工学部	都市デザインキャリア形成支援プログラム
芸術学部	ゲームおよびアニメーション制作における次世代デジタル技術習得塾
	プロダクトデザイン実践プログラム

2. 世界を視野に食品ビジネスを学ぶ「グローバル・フードビジネス・プログラム (GFBP)」を開始

2023年4月から、文理芸融合の学部横断型プログラムとして、「食」や「ビジネス」について学ぶ「グローバル・フードビジネス・プログラム (GFBP)」を開始しました。

食に関わる文化や素材の旬、産地など、フードビジネス全体を理解し、地域に根差しながら、世界を視野に活躍できる人材を育成するプログラムです。学生たちが、食による地域活性化から世界的なフードロス問題まで、様々な社会課題の解決に向けて学んでいます。



3. 観光分野でのリカレント・リスキリング教育講座を開講

社会のニーズに対応したリカレント・リスキリング教育の推進に向けて、幼稚園教諭免許法認定講習や地元の業界団体等と連携した講座などを展開。2023年度は、特に観光分野の人材育成に注力し、文科省採択事業の「次世代観光マネジメントリーダー育成プログラム」を実施し、また、観光庁の実証事業として「観光地経営人材育成プログラム」を実施しました。



次世代観光マネジメントリーダー育成プログラムでは、観光に係る組織マネジメントや、観光地の経営戦略を学ぶほか、熊本県の黒川温泉や大分県佐伯市での現地学習なども行いました。

4. UIターン就職支援に関する連携協定を長崎県と締結

長崎県の産業の次代を担う人材の育成・確保と地域の活性化を図ることを目的に、本学と長崎県は相互に連携し同県へのUIターン就職を促進することに合意し、「長崎県と九州産業大学とのUIターン就職支援に関する連携協定」を締結しました。

締結後には、同県の企業による就職相談会などの地元就職を目指す学生へのイベントを実施したほか、インターシップの受入先が拡大しました。





研究力の向上を目指すとともに、大学院の改革を行い教育研究体制の充実を図る。

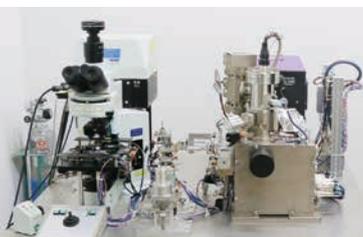
2025年度
までの目標

- ▶ 文理芸を融合した学際的研究の推進
- ▶ 産業界と連携した研究の推進
- ▶ 大学院の改革
- ▶ 研究実績の拡大
- ▶ 優秀な大学院生の獲得

1. 世界初のカラー電子顕微鏡の製品化



▲ 2023年6月報道発表



▲ 世界初のカラー電子顕微鏡



▲ 国産初の免疫染色用蛍光色素

本学は、蛍光色素試薬の改良に関する研究開発を行う株式会社アイエスティーと、顕微鏡の開発・販売を行う株式会社TCKと共同で、分子レベルの解析分野で運用可能な世界初のカラー電子顕微鏡「FST-1000」を開発し、2023年7月より販売を開始しました。

本顕微鏡の開発により、専門の技術者の手を介さず、7,000倍の高倍率のカラー画像を得ることが可能となったほか、がんを未病レベル同等で超早期発見できるなど、先端の医療診断現場での活用を見込んでいます。今後も、顕微鏡のさらなる機能強化を進め、基礎研究や臨床データ解析の高度化に貢献します。

2. 産業界と連携した特色ある研究の推進

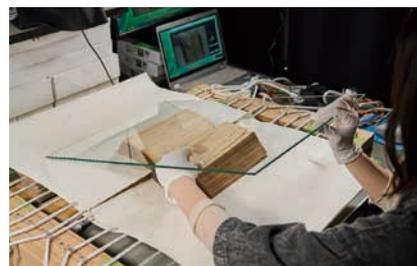
本学では、食品の賞味期限に影響を及ぼす微生物をデータベース化し、食品業界での横断的な共有化を目指す研究を推進しています。本研究の拠点である本学「食品微生物制御センター」は、「MALDI-TOF MS微生物同定コンソーシアム第1回シンポジウム」を開催し、生命科学部の教員や、一般財団法人日本食品分析センター、キューピー株式会社などの研究者13名が最新の研究技術等について発表。県内外から食品関連企業の担当者や、行政機関の研究者、大学生等300人を超える参加があり、本研究の情報交換を活発に行いました。



3. 旧国鉄史料「局報」のデジタル化

九州旅客鉄道株式会社が保管していた門司鉄道局「局報*」のデジタル化に取り組んでいます。労働史や観光史など幅広い分野の研究に貢献する高い資料価値を持つ「局報」を、本学に設置した特設の機材で撮影。貴重な史料を後世に残し、様々な学問の発展に寄与する取組みを進めています。

* 局報：戦前の門司鉄道局の運行状況や業務上の伝達事項などを記載したもの





留学プログラムの充実を図り、様々な海外経験を通じて、グローバル人材の育成を目指す。

2025年度
までの目標

- ▶ 国際感覚を養うプログラムの展開
- ▶ 学生の海外経験の増加及び留学支援体制の強化
- ▶ 優秀な留学生の獲得及び支援の強化
- ▶ 海外大学・組織等との連携の強化
- ▶ 国際化を推進する体制の整備

1. 世界で活躍できる人材育成を推進

スタンフォード大学「SPICE」*との連携教育プログラム「Stanford e-KyuSan-U」を、2023年4月から開講しました。「多様性(Diversity)」「持続可能性(Sustainability)」「起業家精神(Entrepreneurship)」をテーマに、英語でのオンライン授業を実施。20名の受講学生が、プログラムを通して多様な価値観や考え方に触れ、国際関係や世界的課題への理解を深めました。

また、成績優秀者2名は、米国シリコンバレーで開催されたVIA主催の「社会イノベーション短期研修(ESI)」に参加。企業訪問やワークショップを通じて、課題解決のためのデザイン思考を学びました。

本プログラムは、国際的かつ多様な価値観に触れる貴重な機会として、2024年度も継続して開講しています。

* SPICE(Stanford Program on International and Cross-Cultural Education): 初等教育から高等教育までのカリキュラム開発や教員の専門性開発、遠隔学習コースの開発を行っているスタンフォード大学の部局



2. 海外大学との連携を強化

本学は、世界10か国24の大学と国際交流協定を締結しています。新たに協定を締結(2023年9月)した韓国の釜山外国語大学との間では、メタバースシステムを活用し、学生たちの異文化コミュニケーションや、教員間の共同研究の推進を図っています。



3. 留学後の成果に応じた奨励金制度の新設

学生の意欲とチャレンジ精神の醸成を目的に、学生の語学レベルの成長度に応じた奨励金を給付する「アチーブメント奨励金」を2024年度より新設します。海外経験を通じたさらなる語学力・コミュニケーション能力の向上を後押しします。

【支援】 20～70万円

【対象の語学検定等】 TOEIC(IP含む)、TOEFL(ITP,iBT)、IELTS、英検、中国語検定、韓国語検定、フランス語検定

【対象の留学プログラム等】 本学独自の海外経験プログラム(個人留学支援制度、海外渡航実施科目、認定留学、国際交流センター承認プログラム)

※ 同制度は、一定の留学期間・条件等があります。





企業との共同研究や、大学発ベンチャーの設立など研究成果の社会実装を目指し、産学連携を強化する。

2025年度
までの目標

- ▶ 社会性の高い研究の促進
- ▶ 産学官連携を強化するネットワークの構築
- ▶ 大学発ベンチャーの育成

1. 社会性の高いプロジェクトの推進

造形短期大学部は、NPO法人「次世代のチカラ FUKUOKA」(福岡市)と共同で、ランドセルをリユースし、次の使い手に繋ぐプロジェクト「ランドセル+αプロジェクト」を実施しました。中古ランドセルに対するマインドチェンジを促し、必要な子供にランドセルを届けることを目的とした譲渡会「ランドセルランド」では、企業や他大学の協力を得て、より多くの方が気軽にランドセルを受け取れるようなゲームや仕掛けを企画。2日間の開催で、約350個のランドセルを譲渡しました。

今後も、産業界との連携活動を通じたSDGs推進活動に取組み、学生の学びを活かした地域社会への貢献を目指します。



2. 自治体との連携強化

コミュニティバスの運行管理支援のほか、町のアート活動として壁画制作などを行ってきた須恵町(糟屋郡)との間に、包括連携協定を締結しました。この締結により、大学の教育研究を活かした地域の課題解決など、より一層発展した活動に取組みます。

その他の自治体との
取組み事例

朝倉市：朝倉市周遊観光活性化プロジェクト
 宗像市：保育士と学生の対談プログラム
 柳川市：柳川名物PRのための「うなぎめしMAP」制作

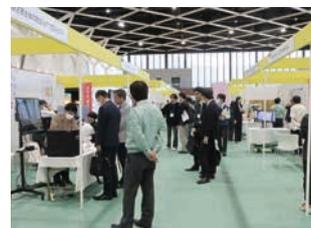


3. 産学官連携の強化に向けた組織の創設

新たな産学連携体制の構築に向け、新組織「産学共創・研究推進本部」を創設しました。産業界や自治体のニーズと本学が持つ研究シーズのマッチングにより、組織対組織の連携強化を図るほか、文理芸が融合した産学連携プロジェクトの創出を目指すなど、地域社会の課題解決につながる活動を推進します。

重点テーマ

「組織的な産学連携活動の推進」「特色ある研究の創出」
 「学術的な強みを活かした地域づくり・まちづくり」





地域の課題解決に向けた取り組みや本学施設を利用した交流などを通じて、地域に貢献する大学を目指す。

2025年度
までの目標

- ▶ 地域社会の課題解決へ向けた貢献活動の推進
- ▶ 本学の施設を活用した地域との交流
- ▶ 地域に向けた知の発信

1. JR香椎線の課題解決・利用促進に向けた取り組み

芸術学部と理工学部の学生が、西戸崎駅(福岡市)と宇美駅(糟屋郡)を結ぶJR香椎線の利用促進に取り組みました。芸術学部の学生が、周りの景観に馴染むようなレトロ感やモダンを感じる「大正口マン」をテーマに、新原駅(糟屋郡)の駅名看板を制作したほか、理工学部の学生が常態化する不正乗車対策のための「開運おみくじアプリ」を開発。

今後も、大学で培った専門的な知識やスキルを活かして、企業が抱える課題解決に取り組めます。

- 1: JR新原駅のイメージアップ
- 2: 開運おみくじアプリの開発



2. 官学連携による二セ電話詐欺被害防止ハンドブックを制作

二セ電話詐欺被害防止を目的とした「電話対応ハンドブック」を、人間科学部と芸術学部、国際文化研究科の学生が制作しました。高齢者の目に留まりやすい配色や、詐欺の手口を理解しやすいようなデザインを工夫した同ハンドブックは、9万部が発行され、福岡県警の広報啓発活動で使用されています。また、被害防止に貢献したとして、福岡県警察本部生活安全部長より学生たちに感謝状が授与されました。



3. 地域と図書館の連携を促進

本学図書館にて、絵本と図鑑の図書館「絵本と図鑑の親子ライブラリービブリオキッズ」(福岡市)との共催展示やワークショップなど多数のイベントを開催しました。地域の子どもたちに、ココロの健康を育む「絵本の魅力」を伝えることを目的に、造形短期大学部による「工作ワークショップ」や、子ども教育学科による「絵本の読み聞かせ」を実施。今後も他機関・地域等との連携を促進していきます。





多様な人々が集い学ぶインクルーシブな大学運営を行う。

2025年度
までの目標

- ▶ 男女共同参画社会を担う学生の育成
- ▶ 多様な学生への支援
- ▶ 多様な教職員の参画機会拡大

1. パラスポーツ競技体験会 in 九州産業大学を開催

「パラスポーツ競技体験会」を大楠アリーナ2020にて初めて開催しました。

車いすバスケットボールチーム「ライジングゼファークオカWheelchair」で活躍する本学の卒業生をはじめとしたパラアスリートや指導者を招き、車いすバスケットボール、パラバドミントン(車いすの部)、ゴールボール(目隠しをし、鈴の入ったボールを転がして、ゴールに入れることで得点とする視覚障がい者の球技)等の4競技を、体育系サークルに所属する学生など50人が体験。参加した学生は、この体験を通して、ダイバーシティへの理解や共生社会(ノーマライゼーション社会)の重要性への理解を深めました。



2. 九産大ダイバーシティ月間2023を実施

「多様性」について、見る・聴く・学ぶ・体験する「ダイバーシティ月間」を実施しました。学生や教職員を対象に、外部講師によるスポーツを通じたジェンダー平等や女性と健康に関する講演会を開催。また、ダイバーシティ関連の書籍を図書館に展示するなど、様々なプログラムを展開しました。多様性についての理解を深め、誰もが自分らしさを大切に過ごせる環境づくりを進めています。



3. インクルージョン支援室の設置が決定

合理的配慮*の確実な提供に向けた学生支援組織「インクルージョン支援室」**を2024年4月に開設しました。教職員と連携し、視覚・聴覚・精神・発達・内部等の障がいや有する学生への合理的配慮内容の調整に加えて、各種障がいやLGBTQなどの相談および理解促進に取り組んでいます。



* 障がいの有無に関わらず教育を受ける権利を行使できるよう、大学が必要かつ適当な変更・調整を行うこと。

** 障がいや疾病等の理由により、授業上の困りごとを抱えている学生の相談窓口。



本学ならではのブランドイメージの構築を図り、
産業界や地域への広報・広聴活動を拡充する。

2025年度
までの目標

- ▶ 本学ならではのイメージ構築（「もっと意外に。もっと自由に。」）
- ▶ 産業界や地域への広報・広聴機能の拡充

1. KSUアスリートの功績を一挙に紹介する「ヘリテージコーナー」を設置

本学が創立した1960年以降の歴代アスリートが残してきた数々の功績を一挙に紹介する「ヘリテージコーナー」が大楠アリーナ2020館内に誕生しました。

壁面には、各サークル活動の卒業生や学生が残した成績と競技写真からなるウォールグラフィック(写真上)を設置したほか、世界大会の際に使用した空手のグローブや、準硬式野球部の全国大会優勝時のウィニングボールなど実物を展示。また、書棚をイメージした木製KSU型のディスプレイケース(写真中央)を設置し、優勝トロフィーや、現在プロスポーツ界で活躍する卒業生のユニフォームなど本学アスリートの輝かしい功績を称えた様々なアイテムを展示しています。本学のスポーツ活動に対する理解促進と、学生のスポーツに対するチャレンジ精神のさらなる向上を図ります。



2. 広報ビジュアル「超えるを学ぶ。一文理芸で、磨き合えー」を展開

本学ならではのイメージを構築するため、統一したデザインイメージ「超えるを学ぶ。」を活用した広告を、オープンキャンパス期や入試出願期に展開。また、研究やプロジェクト活動を通じた学びや、文理芸融合教育の魅力を伝えるため、学生や教員の「リアルな情熱や表情」を映し出したCMを制作し、TVやYouTube、SNS等で発信しました。



3. 芸術活動を通じた本学の魅力発信

本学美術館にて、大学院芸術研究科の修了生作品の展示や、2022年で20周年を迎えたファッションブランド「ミントデザインズ」の軌跡を辿る展覧会(写真右)など、年間計7つの展覧会を開催。学内外から多くの方にご来場いただきました。様々な芸術活動を通して、本学ならではの魅力を地域社会に発信しています。





財務体質や大学運営の基盤強化および職員のさらなる能力向上を目指す。

2025年度
までの目標

- ▶ 継続的な組織改革
- ▶ IR機能の強化
- ▶ ガバナンスの強化
- ▶ 教員組織の充実
- ▶ 同窓会・卒業生との関係強化
- ▶ 財政基盤の一層の強化
- ▶ 業務改革・効率化
- ▶ 事務職員の能力開発
- ▶ 将来を見据えたキャンパス整備

1. 環境に配慮したキャンパス整備の推進



本学は、2021年度に持続可能な開発目標 (SDGs) に関する「学長宣言」を制定し、環境・防災に関する分野における省エネ・温暖化防止等、人や地球にやさしいキャンパス整備を目指しています。

環境に配慮したキャンパス整備の一環として、CO₂排出量の削減を目指し、再生可能エネルギー（太陽光発電設備）を導入。キャンパス内の4棟の屋上に太陽光パネル約1,300枚を設置しました。発電した電力はキャンパス全体で消費し、年間で3.6%のCO₂排出量の削減につなげます。また、学内にデジタルサイネージを設置し、発電量や消費電力量をリアルタイムで発信することで、学生や教職員の省エネ意識の向上を図ります。

2. 九州産業大学テーマ募金の推進

教育・研究・国際交流・課外活動などから、応援したいテーマを選んでご寄附いただく用途指定型の募金事業を実施しています。2023年度は、本学の様々な取組みにご賛同いただく方が増え、本テーマ募金への寄付件数が増加しました。皆様からいただいたご支援は、様々な教育プログラムや奨学金制度、サークル活動の充実等に向けた資金として活用させていただくとともに、今後もより多くの応援を受け成長する大学を目指して取組みを推進していきます。



募金テーマ例「サークル活動の活性化」

3. 危機管理体制の強化

授業・課外活動時の事故や、豪雨(台風)・地震などの自然災害、火災や大規模停電などの様々な危機への対応を示した災害時の「危機管理マニュアル」を制定しました。危機を未然に防止するための教職員の意識の向上や、発生時の対応能力の向上および被害を最小限に抑えることを目的に、全教職員に本マニュアルを共有。学生と教職員の安全と安心の確保を第一に、不測の事態に備えた危機管理体制を構築しています。

「1年間の取組み 2023」 YouTube で配信中

動画はこちらから
ご覧ください



大学公式
SNS 発信



kyushusangyo_university



@kyusan_kouhou



九州産業大学



九州産業大学

【発行】 学校法人中村産業学園 総合企画部企画課

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台二丁目3-1
TEL (092) 673-5505 / FAX (092) 673-5025 / E-mail kikaku@ml.kyusan-u.ac.jp



KSU
KYUSHU
SANGYO
UNIVERSITY

九州産業大学



九州産業大学造形短期大学部
ZOKEI KYUSHU SANGYO UNIVERSITY, ZOKEI JUNIOR COLLEGE OF ART AND DESIGN